年頭のご挨拶

船橋中央病院院長　横須賀　收

明けましておめでとうございます。皆様方には昨年中大変お世話になりました。

今年は「平成」からの改元を控えており、大きな時代の変化を迎えようしています。そのような中でも当院は（独）地域医療機能推進機構の第一期計画の最終年度であります5年目を恙がなく迎えることが出来ました。ご厚誼に感謝申し上げますとともに、本年も船橋中央病院を宜しくお願い申し上げます。

２０２５年には団塊の世代が70歳を迎えるということで、今後人口統計上急速に高齢化が進んでいくと予想されます。数が少ない若年者が多くの高齢者を支えなければならないことから医療費はじめ福祉・介護にかかる費用が増加し、待ったなしに医療の変革が迫られております。私たち（独）地域医療機能推進機構の使命は〝地域医療の要として高齢化社会の多様なニーズに応えて、住民の方々の生活を支える〟というものであります。県や市の行政・消防局・警察、また近隣の医療機関、医師会・歯科医師会・薬剤師会と密接に協力して、地域全体の医療を無駄なくスムースに行っていくことが大切と思われます。地域包括ケアとはある意味では患者さんを中心にして、診療所や病院との地域における連携を深めてゆくことと思いますが、当機構はこのような地域包括ケアを進めることがその大きな責務と考えております。患者さんを初めとする地域住民の方々のために当院は東葛南部、船橋地域の要として地域医療に貢献するために職員一同鋭意努力をしていく所存であります。

救急医療の面では一昨年4月から船橋市の二次救急輪番体制に加わらせていただきまして各職員、奮闘しているところです。お陰様で、救急車の患者さんをお断りすることは非常に少なくなっており、船橋市の救急医療の一助を担いつつあると考えています。近隣の医療機関と密接に連携を保ちつつ、切れ目のない地域医療を構築していけるよう努力をしていると

ころであります。

昨年、訪問看護室から訪問看護ステーションへと組織を拡大・増員し病院に来ていただくのみならず、当院より患者さん宅に積極的にお伺いする訪問看護をますます拡充することが出来ました。今後も地域に密着した医療を行っていくつもりでございますので地域の皆様方にますます訪問看護をご利用いただければと思っております。

医療連携室を充実して開業医の先生や近隣の病院と顔の見える関係を築きながら気軽に患者さんを紹介していただき、また逆に紹介をさせていただくように努力しているところであります。紹介率・逆紹介率の推移をみてみますと、近年共に少しずつではありますが増加しつつあります。今後も何かあれば遠慮なくご連絡いただき、病院長・副病院長・各科の部長はじめ率先して診療させていただく体制を築いておりますので、ご利用いただければと存じます。

最近は肥満などによる糖尿病やメタボリック症候群が増えており、生活習慣病の原因となっております。また、骨や筋肉の弱くなるロコモーティヴ症候群や眼の病気である白内障や緑内障も増加しております。これらの病気をはじめいろいろな病気の市民公開講座や勉強会もこれまで以上に開催していきたいと思っております。

初期研修医も来年度は5名の方に来ていただく予定です。当院では内科、外科、産婦人科といった専門科別に分かれておりますが、今後はどんな病気にも対応できる総合医を育成することにも努力して参りたいと思っております。また、医療のレベルを保つためにも、学会や研修会などに積極的に参加していきたいと思っております。

最後になりますが、今年は診療の効率化を進めるために職員一同が待望しておりました電子カルテを導入したいと考えております。昨年来、電子カルテの導入に向けて準備を行って参りましたが、漸く軌道に乗り始めたところです。電子カルテにすると、医師がコンピュータの画面ばかり見て患者さんとの接触がややもすると疎かになりがちとのお話もありますが、その様なことの無いように医療スタッフを指導していきたいと思っています。

今年は猪年で、目標にまっしぐらに突進していく年との意味もあるようです。真摯に努力を積み重ねていきますので、どうぞ宜しくご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。